

登録コード	L2532400	開講年度	2026	
担当教員	飯岡 詩朗	副担当		
授業科目	英語文学特論IV			
英文授業名	Literature in English IV			
授業タイトル	英米映画史（誕生から第二次世界大戦期まで）			
単位数	2	対象学生		講義期間 前期 曜日・時限 水曜・2時限
講義室	人文第4講義室	遠隔授業科目		読替科目 読替科目は履修案内を確認すること
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		⇔	【授業の達成目標】
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ			
	【2023年度以降対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につけている。 【思索力・受容力・批判力】		⇔	映画の歴史を総合的に理解することをおして人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につく。
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働			
全学横断特別教育プログラム				
授業の概要	映画の歴史は、単に芸術史としてだけでなく、政治史、社会史、経済史、科学技術史として多角的にとらえなければなりません。この授業では、作品の抜粋を見ながら、アメリカ映画を中心に映画の歴史（映画と歴史）を講義していきます。 既存のアメリカ映画史では触れられることの少ない「ハリウッド映画」以外の映画（レイス・ムーヴィー、ドキュメンタリー映画、官製プロパガンダ映画等）も取り上げます。また、アメリカの白人＝マジョリティの視点から書かれてきた映画史を、マイノリティ（黒人、ネイティブ・アメリカン、アジア系、ユダヤ系等）の視点を導入しながら、再考します。適宜、他国の映画史についても言及します。「英語文学特論IV」では、第二次世界大戦期から現在までを扱う予定です。			
授業計画	以下の構成を予定しています。ただし、変更することがあります。 第1週 第二次大戦終結までのアメリカ映画——プロパガンダ映画 第2週 戦後と社会問題映画（1）——「フィルム・ノワール」と女性表象 第3週 戦後と社会問題映画（2）——人種問題映画の隆盛 第4週 崩壊するハリウッド（1）——赤狩りとスタジオ・システムの崩壊 第5週 崩壊するハリウッド（2）——アメリカン・デモクラシーのプロパガンダ 第6週 崩壊するハリウッド（3）——郊外化とTVの台頭 第7週 「古典的ハリウッド」の終わり（1）——プロダクション・コードの廃棄 第8週 「古典的ハリウッド」の終わり（2）——「ニュー・ハリウッド」のはじまり 第9週 ヴェトナム戦争とアメリカ映画 第10週 ブラックスプロイテーション映画の隆盛 第11週 巨大メディア産業の中のアメリカ映画 第12週 多文化主義時代のアメリカ映画 第13週 グローバル化と「アメリカ映画」の終わり 第14週 予備日 第15週 まとめ＋授業アンケート 第16週 試験			
成績評価の方法	毎回のレスポンス・フォーム（40%）、試験（60%）によって総合的に評価します。「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」により欠席し、補充を受けた場合を含み、欠席回数が5回を超えると、授業の達成目標に到達することができないため、単位が認定されません。（再試験や追加課題等による救済はおこないません。）			
成績評価の基準	レスポンス・フォームは、1）授業範囲の教科書の理解、2）講義内容の理解、3）教科書と講義を踏まえた考察力の3項目から評価します。3項目すべてを完全に達成できていれば「卓越している」とし、3項目の達成度合いにより、「かなり上にある」、「やや上にある」、「水準にある」とします。 期末の筆記試験では、映画を歴史的にとらえる力、映画を分析的に見る力が養えているかどうかを問います。具体的に問われるのは以下の5項目です。 1）映画史の展開・変遷を正確に理解できているか；2）映画研究・映画史に関わる基本的な用語の意味を正確に理解しているか；3）映画研究・映画史に関わる基本的な用語を正確にもちいて映画を分析することができるか；4）初見で映画の一場面からその映画のおおよその製作・公開年を指定できるか；5）初見で映画の一場面で用いられている技法を名指すことができるか、これらの5項目すべてを満たせば「卓越している」4項目を満たせば「かなり上にある」、3項目を満たせば「やや上にある」、2項目しか満たせない場合は「水準にある」とします。			
事前事後学習の内容	・授業前には、講義扱う箇所を教科書で指定するので事前によく読み、わからない点、疑問に思う点を整理しておいてください。また、講義の前週に必要な応じて資料を配布するので、その場合は同様に事前によく読み、わからない点、疑問に思う点を整理しておいてください。 ・授業後には、講義内で使用された用語、人名、作品名などを整理し定着させてください。また、授業内で配布された資料を読んだり、取り上げた作品を1本でも多く全編鑑賞したりするなどして、理解を深めてください。			
履修上の注意	初回到授業の進め方を説明しますので、履修希望者は初回の授業をかならず受講してください。なるべ			

履修上の注意	く次年度開講予定の「英米文学特論 III」も続けて履修してください。 「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」により欠席し、補充を受けた場合を含み、欠席回数が5回を超えると、授業の達成目標に到達することができないため、単位が認定されません。 出席確認システムにより出席を取りますので、スマートフォン等の QR コード読取り端末を忘れず携帯し、授業開始時刻までに速やかに着席登録してください。QR コード読取り端末を忘れていたり所持していない場合は、学生証持参で原則授業開始前に教員に申出てください。また、30 分を超える遅刻は欠席としてあつきます。（他の学生に成り代わり授業に出席又は代返等の行為を行った者並びに同行為を依頼した者は単位を認定しません。）出席確認システムにより出席が確認できた場合も、同日のレスポンス・フォームの提出がない場合は、欠席とみなします。 「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」による欠席については、規定の申出書による申し出があれば、学修の補充を行います。ただし、補充を受けた場合でも、欠席回数が5回を超えると、授業の達成目標に到達することができないため、単位が認定されません。
質問、相談への対応	原則、授業後に対応します。授業後以外の質問、相談は、直接研究室を訪問せず、事前にメールで連絡してください（実際の対応は研究室以外で行うことがあります）。メールアドレスは人文学部履修案内に掲載されています。
教科書	・北野圭介『新版 ハリウッド100年史講義』平凡社新書。
参考書	・デヴィッド・ボードウェルほか『フィルム・アート』名古屋大学出版会，2007. ・David Bordwell and Kristin Thompson. Film History: An Introduction. McGraw-Hill, 2025. ・トマス・エルセサーほか『現代アメリカ映画研究入門』書肆心水，2014. ・エドワード・J・エプスタイン『ビッグ・ピクチャー』早川書房，2006. ・出口丈人『映画映像史 ムーヴィング・イメージの軌跡』小学館，2004. ・藤井仁子編『入門・現代ハリウッド映画講義』人文書院，2008. ・蓮實重彦『ハリウッド映画史講義』ちくま学芸文庫，2017. ・板倉巖一郎ほか『映画でわかるイギリス文化入門』松柏社，2008. ・R・モールトビー編『大衆文化 [下] 1945- 虚栄の市』（『20世紀の歴史』第10巻）平凡社，1991. ・森山直人『メディア社会における「芸術」の行方』幻冬社，2014. ・村山匡一郎編『映画史を学ぶ クリティカル・ワークズ [新装増補版]』フィルムアート社，2013. ・奥村みさほか『映画でわかるアメリカ文化入門』松柏社，2007. ・マイケル・ライアンほか『増補改訂版 Film Analysis 映画分析入門』フィルムアート社，2025. ・杉野健太郎編『アメリカ映画史入門』三修社，2024. ・吉本光宏『イメージの帝国／映画の終り』以文社，2007. ・渡部幻ほか編『60年代アメリカ映画100』芸術新聞社，2014. ・渡部幻ほか編『70年代アメリカ映画100』芸術新聞社，2013. ・渡部幻ほか編『80年代アメリカ映画100』芸術新聞社，2011. ・渡部幻ほか編『90年代アメリカ映画100』芸術新聞社，2012. ・渡部幻ほか編『ゼロ年代アメリカ映画100』芸術新聞社，2010. ・ロバート・スクラー『アメリカ映画の文化史』[上下巻] 講談社学芸文庫，1995. ・Drew Casper. Postwar Hollywood: 1946-1962. Blackwell, 2007. ・Jon Lewis. American Film: A History. 2nd. ed. Norton, 2019. その他、授業で紹介します。また必要に応じてプリントを配布します。